

Letter from Samoa

サモア通信 3rd
Nov.2017
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!サモア通信第3号です。11月にもなり3年生は進路実現に向けてラストスパートをかけているところでしょうか。自分の目標に向かって努力を継続して欲しいと思います。さて、今回はサモアの村の生活について紹介したいと思います。

○協力隊の生活

協力隊の生活には2種類あります。それは「1人暮らし」か「ホームステイ」です。1人暮らしについてですが、首都で日本と同じようなアパートで暮らしている隊員もいれば、学校の敷地内の小屋みたいな家に住んでいる隊員もいます。中には学校のひとつの教室に暮らしている隊員もいます。彼の家は1年A組と理科室の間です。ちなみに自分は首都から少し離れた村で「ホームステイ」をしています。

○サモアでの新しい家族



これがサモアでの自分の家族です（少し近所の子も混じっています）。まさかこの歳になってこんな大家族の一員になるとは思ってもいませんでしたが、とっても楽しく生活しています。家族のほとんどとはサモア語で会話をし、豚9匹、犬5匹、猫3匹、鶏たくさんに囲まれております。豚の餌やりが自分の家族での役割となり、10歳の弟と一緒に餌付けしております。

○村の生活

サモア人は基本的に暑い時間は動きません。朝の早い時間から活動（掃除や買い物）をし、暑い時間はマロロ（休息）をし、夕方くらいに料理や掃除をします。また、食事の時間が日によって違います。我が家では夜8時くらいが夕食のことが多いのですが、たまに夕方5時くらいのときもあります。ある日のこと、夜7時くらいに「Hiro!」と呼ばれました。晩ご飯かと思って行ったら、豚の晩ご飯の時間で、空腹の中、餌付けを手伝ったこともあります。最初はいろいろ生活リズムをつかむことに戸惑いましたが、今では「リズムがない」ことに完全適応して、マロロいっぱいゆったりした生活をしております。

○日曜日は教会

サモア人の95%は「キリスト教」です。そして、日曜日は神聖な日となっています。宗派にもよりますが、午前中に1～2時間ほど教会でお祈りをして、その後「トオナイ」と呼ばれるごちそうをいただき、午後からはマロロです。日曜日に外で賑やかにすることは失礼な行為とみなされ、お店なども全て閉まっています。



○サモアでマロロは大切な文化

サモアの生活いかかでしょうか？彼らは隙あらばマロロしています。それが大切な文化なのです。彼らの文化を大切にしながら、日本人としての侍魂を心に抱きながら、サモアライフを引き続き「楽しんで」いこうと思います。それではまた会う日まで！Fa soifua！